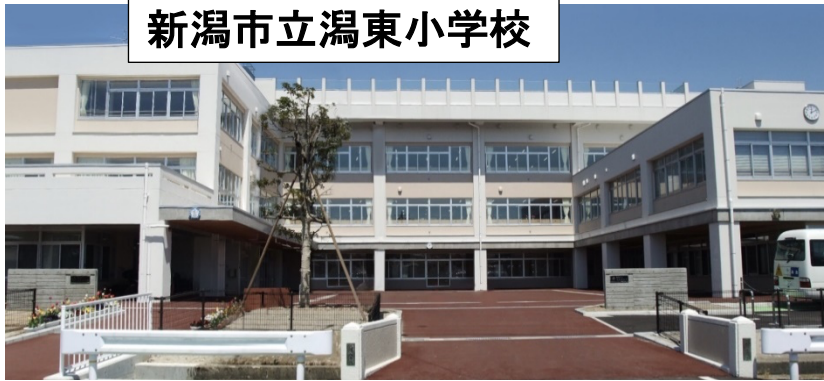


新潟市立潟東小学校



学校データ

【学級数】

11 学級

【児童生徒数】

256 人

【地域コーディネーター
の有無】

有

潟東地域に誇りをもつ子どもの育成

1 はじめに

新潟市立潟東小学校は、弥彦山・角田山を望む新潟市西蒲区の広々とした田園地帯に位置する。旧潟東村の三小学校（東小・西小・南小）が統合し、平成28年4月に潟東小学校として開校した。5年間を旧潟東南小学校の校舎を増設して過ごし、令和3年4月に新潟市初の潟東中学校との小中併設校として、新校舎に移転したばかりである。地域の方々の学校への関心は高く、協力的な地域である。

児童は、素直で優しい子どもが多く、ほとんどの児童が、かたひがし保育園に在園、入学してくるため児童同士の仲がよい。半面、人間関係が固定したり、やや積極性に欠けたりする面もある。

潟東の地名は、今は埋め立てられた「鎧潟」の東に位置することから来ている。稲作が盛んなことはもちろんであるが、古くからカモ猟が盛んで、12月第1週には「かもん！カモねぎ祭り」が行われている。当校では、毎年この「かもねぎ祭り」への参画を中心に、潟東地域の歴史について学び、地域に誇りをもち、将来の潟東地域を担う人材の育成を目標に、地域教育プログラムを実践している。第3学年の総合的な学習「潟東いいところ自慢」の学習の一環である。

2 取組の実際

(1) カモ猟・鎧潟についての学習

潟東猟友会の方をゲストティーチャーにお迎えし、カモ猟について学ぶ。夜中、カモ小屋で待つこと、網の仕掛け方などについて話を聞く。

(2) ねぎの栽培

「かもん！カモねぎ祭り」のために、地域の学習ボランティアから指導を受けながら栽培園でねぎを育てる。



ねぎの収穫の様子

(3) 「かもん！カモねぎ祭り」への参画

例年12月第1週に潟東コミュニティ協議会主催で行われている祭りである。県内外から大勢の観光客が訪れる。

地域の祭りへ参画することで地域への関心を高め、誇りをもつことができるように、3年生は自分たちで育てたねぎを

丸ごと焼いて食べる「ねぎ焼き」の店を出店している。(令和2年・3年はコロナ禍のためカモねぎ祭りは中止となった。)



カモねぎ祭りでの3年生ねぎ焼き販売
(写真は以前のもの)

(4) カモ汁作り・ねぎ焼き体験

地域の学習ボランティアから協力いただき、カモ汁作りとねぎ焼き体験を行う。郷土食であるカモ汁であるが、カモ肉は高価であり、実際には家庭で食べる機会は少ない。食べたことのない子どももいる。学校でカモ汁作りを行い、食べることは、伝統を伝えていく意味もある。



大鍋いっぱいのカモ汁



炭火で丸ごと一本ねぎを焼く。

(5) 「みんなでつながろう！カモねぎの唄」 でにじいろ音楽祭へ出演



新潟市内小学校の「にじいろ音楽祭」(りゅーとぴあ)3・4年生が出演した。

「みんなでつながろう！カモねぎの唄」の曲は、カモねぎ祭りのキャンペーンソングとして平成26年に作られた。当時の旧潟東3校の子どもたちが全校で歌い、その歌っている様子が祭りの際に放映された。

潟東小学校として開校した年から、新潟市内小学校の「にじいろ音楽祭」へ毎年この歌で参加している。『カモン！カモン！カモ、カモねぎ祭り！』と掛け声や振り付けが入るこの元気な曲は、子どもたちのお気に入りである。潟東地域への愛情や誇りが歌詞に盛り込まれ、音楽の力も相まって潟東地域に誇りをもつ子どもの育成につながっていると感じる。

3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

地域のカモ猟やカモねぎ祭りを中心に据え、体験したり参画したりすることで地域への理解を深め、地域に誇りをもつ子どもを育てることにつながっている。

学びに向かう力・人間性等の「進んで地域の活動に参加しようとしている」資質・能力が育成されている。

4 おわりに

地域を担っていく人材を育てることは旧潟東村唯一の小学校である当校にとって、特に大切な任務である。コミュニティ・スクールが始まり、今後更なる進化・深化が期待できる。